

補助率：1/2

### (3) 県負担・補助率の考え方

補助率 1/2以内

(新しい地方経済・生活環境創生(第2世代交付金))

### (4) 類似事業の有無

なし

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	1,062	薪割機、保管かご等
合計	1,062	

## 決定額の考え方

--

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

岐阜県特用林産の振興方針(第2期2次改訂); R6~R8年度

#### 6. 各分野における基本戦略

##### (2) 生産対策

既存生産者の生産規模拡大や効率化のために必要な薪割り機や乾燥用ハウスなどの施設整備に必要な経費を助成する。

目標: 薪の生産量を令和8年次までに5,700層積m<sup>3</sup>とする。

### (2) 国・他県の状況

宮城県: 山の幸振興総合対策事業

### (3) 後年度の財政負担

岐阜県特用林産の振興方針(第2期2次改訂)の計画期間である令和8年度まで実施し、終年度中に必要な検討を行う。

### (4) 事業主体及びその妥当性

自伐林家や木材伐採事業者が経営の多角化を進め、経営の安定化を目指すことと、広葉樹資源のカスケード利用を推進するために、事業主体を薪等生産者、薪等流通業者とすることは妥当。

# 県単独補助金事業評価調書

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

## (事業内容)

補助事業名	薪の広場支援事業
補助事業者（団体）	薪等生産者、薪等流通業者 （理由） 薪等生産者、薪等流通業者：伐採から薪生産まで一貫した作業が可能で、継続した生産販売を行うことができるため。
補助事業の概要	（目的） 薪の需要量と供給量とに差がある事と、広葉樹資源大径化が進んだことから、供給量の増加と薪製造での労務の軽減化を図る。  （内容） 薪生産者等が薪生産に要する施設整備に対して支援する。
補助率・補助単価等	定額 （内容） 1 / 2 （理由） 国庫補助事業の対象事業
補助効果	薪等の供給量が増加することにより、薪等の安定的な供給体制の整備を図る。
終期の設定	終期 令和8年度 （理由） 岐阜県特用林産物の振興方針（第2期2次改訂）計画期間の終了が令和8年度のため。

## (事業目標)

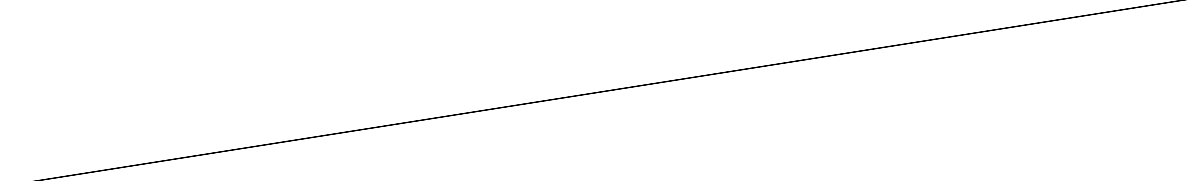
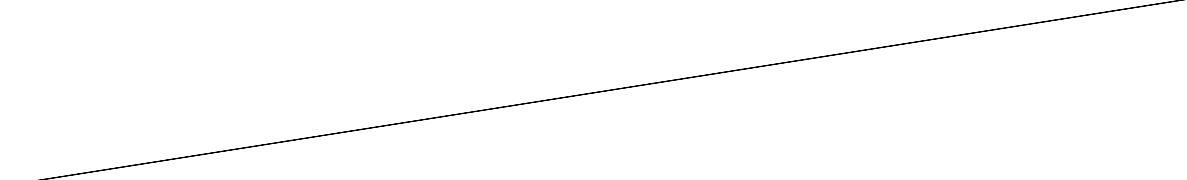
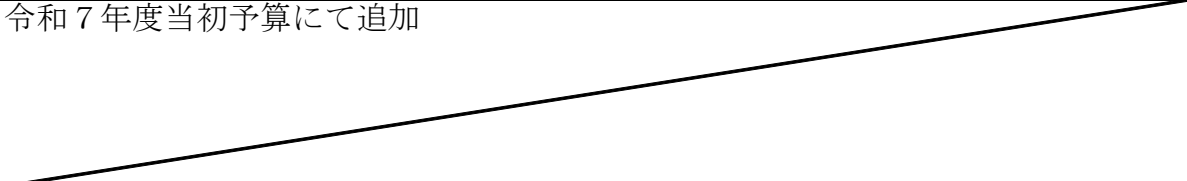
・終期までに何をどのような状態にしたいのか 広葉樹林整備及び広葉樹資源のカスケード利用による、薪生産量の増加
---

## (目標の達成度を示す指標と実績)

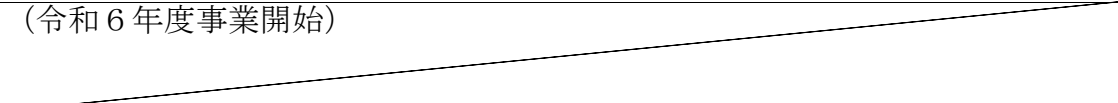
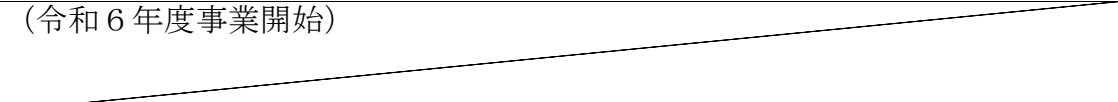
指標名	事業開始前 (R2～R4)	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①薪生産量（層積m <sup>3</sup> ）	4,800	4,509	3,928	5,100	5,700	69%

補助金交付実績 （単位：千円）	R3年度	R4年度	R5年度
	－	－	－

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和5年度	
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和6年度	令和7年度当初予算にて追加 
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)</p> <p>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	薪の需要は増加しているため、供給体制を増加させる必要性は高い。 また、広葉樹林の整備や広葉樹のカスケード利用を進める面でも必要である。
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)</p> <p>3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり)</p> <p>2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成)</p> <p>1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50～100%)</p> <p>0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価)	(令和6年度事業開始) 
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)</p> <p>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価)	(令和6年度事業開始) 

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>安定的な原木の供給体制の確立と、広葉樹1本から用材、薪、チップ等のカスケード利用の推進が必要である。</p>
--

(次年度の方角性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>広葉樹資源を有効利用するため、今後も支援は必要である。</p>
--